

『コロナ禍』以降における、航空労働者の労働実態変化と課題

奥平 隆 NPO 法人「航空の安全・いのちと人権を守る会」 副理事長

《報告要旨》

コロナ禍が始まる前の2016年から2024年春までの約8年間の航空整備士、グランドハンドリングの現場労働者に実施された労働組合によるアンケート、インタビューをもとに、現場労働者が抱える不安・ストレスについて、統計的に分析した。

コロナ禍の大きな変化を挟み「労働者(人員)不足」という根本原因がバックグラウンドとなっており、それを解決する有効な対策がとられていないことを明らかにした。こうした中で現場・労働の質も変化し、ますます仕事への責任が重くなり、それに対する評価と、待遇が伴わない中、負のスパイラルに入り込んでいる。

過去の、航空整備士の労働災害認定をめぐる論点を比較しながら、拘束時間が長くなっているなど現在の問題も明らかにしたい。

[2024-08-25 版]